

## ◆ 森林公園へ研修旅行！



6月5日は、佐賀森林公園研修旅行で、会員12名が佐賀を訪れ、117本の樹木の観察をしてきました。

車中では、テキストで森の保育の概念を学び、公園では、それぞれの樹木の特徴などを散策して回り、新緑の木々の樹形や、葉っぱ、実の特徴を見届けました。特に、珍しいネコノチチやラクウショウとメタセコイヤなどに注目が集まっていました。

昼は小城羊羹のドライブインに立ち寄り、帰りは、唐津周りで道の駅で土産を買って、思い出に残る楽しい研修旅行になりました。

## ◆ 第1期ツツジ剪定終了



5月15日を皮切りに着手した「古賀グリーンパークツツジ植栽地の第一四半期の剪定作業」が、6月19日で事実上終了しました。

1年ぶりの剪定作業になることから、会員の皆さんに「怪我に十分注意して取り組むこと」を説明、着手しました。皆さんが頑張っていたいただいたお蔭で、前半の剪定は順調に終わったものです。

個々の力は少しでも、大勢の力がそろえば、立派な作業ができることが証明されました。作業は延7日間で、人頭数は40名でした。残すところ周辺の草刈りで、完全完了となりました。

## ◆ 花壇植替えに飛入参加者

暑さ厳しい5月25日は、JR古賀駅前花壇の花がらが一部目立つようになり、植替えの時期が来ていました。

現状を知った有志4名が、“はなちどり”で育てたヒマワリ、ケイトウ、ペチュニア、マリーゴールド苗を運んで、古い花を引き抜き、持ち込んだ花々を植え込んでいたところ、元会員だった花好きの方が、声掛けながら近づいてきて手伝い始めました。強力な救いの手で、会員は一層の力を得て、共に、楽しみながら、花を植え付けました。

きっときれいな花が咲くでしょう。



## ◆ 芋植え・先が楽しみ！

5月30日は気温の上がる10時過ぎから、青柳小学校1年生50名が、運動場の片隅の畑にサツマイモ苗を植え付けました。

1年生は、先生の指示や7会員のサポートを受けて、事前に説明された方法で、丁寧に芋のツルを植え付けていました。その後、これからの水遣りや畑に入るときの方法などを学びました。最後に、子ども達の感想で「芋を植えるのが楽しかった！」の言葉があり、芋が採れる時を早くも楽しみにしているようでした。

畑は、2週間前に、会員が耕耘と畦立を済ませていました。



## ◆ 終盤の花壇華やかに！



薄曇りの6月18日には、“はなちどり”定例日で、11名の会員が集いました。

この日は、花植えも終盤になり“はなちどり”横の県道筋の花壇を植え替えました。咲いていたパンジーの時期は終わり、アスター、千日紅、マツバボタンを植え付け、これからの花壇を飾ります。道行く人から、「お疲れさま！」の声をいただき、きっと花壇の花の満開を楽しみにしている方でしょう。午後は、一部の会員が花見眼科の花壇の手入れに向かいました。

## ◆ ホーム花壇の植替え進む！



このところ、JR花壇などの遠征作業が続いた定例日でしたが、11日は、久しぶりにホームの花壇の再生に取り組みました。

ハウス前の細長い花壇では、球根を掘り上げ、耕し、ケイトウ、マツバボタンを植え込みました。広い花壇では、シニア、千日紅、ペチュニア、マツバボタンを配置して仕上げました。

また、県道側のハボタンなどを取り除き、一部ペチュニアを植え込みました。この日の、皆さんの頑張りは目を見張るものがあり、自主的に、花壇植替え作業に積極的に取り組んでいました。

## ◆ 早朝の水やり！

今年の4月以降は、降雨量が少なく、福岡県下のダムでも貯水量が減り続ける状況がありました。

並行するように古賀市内でも、降水量が少なく、各花壇では水不足気味で衰弱状態が続いています。そこで、5月12日から、1週間交代の水遣り当番制を採り、担当は、ほぼ毎日の水遣りに努めています。

5月下旬のある朝、6時から、1時間を超えて水遣りに頑張っていました。花壇は、早期の梅雨入りの雨を待っています。



## ◆ 季節を彩る木々の花

古賀グリーンパークの花々は、折々に咲き続け、訪れた方に季節の移り変わりを感じさせています。

ヤブツバキ：2月ごろから咲く。コブシ：2月から3月に開花。シャクナゲ：4月頃。ソメイヨシノ：3月下旬頃。スイレン：6月頃。ナツツバキ：6月頃。公園では、春から夏の木の花が咲きました。



### 四方山話

#### “花や木を守る”とは

古賀市緑のまちづくりの会は、ボランティア組織として、「緑をまもり育てること・・・」をテーマに市内各地はもちろん、時には、他市との交流を続けつつ、やがて設立20年を迎えます。

会で花を育てることは、街角に緑豊かな潤いの場所と季節の清々しい花々で、古賀市の清潔感を高め、イメージアップを願うものです。育苗では、人と係わる園芸福祉の心を底辺にもって、花は種から育て、その花等を花壇に活かします。一旦、植え込んだ花々は成長し、花壇に花が咲き誇ることを願って育てます。

夏季の高温時期や、降雨不足の事態等で花壇の乾燥が継続すれば、水遣り当番制を採って花壇に灌水を続けます。花の「生命」を守るのは大変だが、会員は、植えた立場の責任感を心に秘め、華やかな開花を夢み楽しみとします。そのボランティアの報酬は、健康づくり活動での元気です。

一方で、古賀グリーンパークの植林以降、会では「仏作って魂入れず」にならぬよう心掛け、下草刈、除伐などの保育に微力ながら継続し、森の一角の「生命」を守っています。森の「生命」は、公園の森であるなしに係わらず見逃せば荒みます。森では、除伐、間伐は必定で、クズや竹の侵入を防ぐことも大切です。人が係わった古賀グリーンパークの森の保育管理には、適期があり、的確な手入れさえあれば、森は素直に伝えて育ちます。

花や木に対しては、今後も成長過程にある「生命」や「目的」を顧みて、より、適切な手段をとる方法はないのか、日々、思考を廻らせ続けています。

宿 理 英 彦

通信発行連絡先；宿理 092-944-5924

“緑のまちづくりの会” HP アドレス ⇒ <http://www.koga-midori.com/>